

お知らせ

麻しん(はしか)の注意喚起 ～麻しん患者の発生について～		令和7年2月4日 倉敷市保健所保健課 担当： 西川・小原・大野 内線： 8125 直通： 086-434-9810
発 生 場 所	倉敷市内	
患 者 数	1名 (40代 男)	
把握年月日	令和7年2月3日	
速報年月日	令和7年2月4日	
内 容 そ の 他	患者は令和7年1月15日にベトナムから帰国後、1月31日から発熱の症状が出現し、2月2日に発疹の症状が出現したため、2月3日に市内の医療機関を受診。症状から麻しん(臨床診断)の届出があり(2/3)、岡山県環境保健センターで検査を実施したところ、2月4日、麻しんウイルス陽性であることが判明しました。 保健所において患者の行動歴を確認したところ、周囲に感染させる可能性のある時期に下記のとおり不特定多数の人が利用する公共交通機関を利用していたことが判明しましたのでお知らせします。 報道に際しては、患者のプライバシー保護に十分配慮していただきますようお願いします。 1 患者が利用し、不特定多数の方と接触した可能性のある公共交通機関 1月30日(木曜日) JR伯備線 倉敷駅から岡山駅(07時47分発⇒08時07分着) 中間あたりの車両 岡山駅から倉敷駅(18時23分発⇒18時41分着) 中間あたりの車両 ※鉄道会社への直接のお問い合わせはお控えください。 上記日時に当該公共交通機関を利用された方は、体調に注意し、麻しんを疑う症状(発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等)が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡し、麻しんの疑いがあることを伝えてください。受診の際は、マスクを着用し、公共交通機関の利用を控えて医療機関の指示に従ってください。 2 その他 ○ 感染源は国外(ベトナム)からの持ち込みの可能性が高い ○ 患者は在宅療養中(入院なし)で回復に向かっている ○ 接触者については現在調査中 ○ 倉敷市では平成24年(2012年)以来の届出	

	3 注意喚起の内容 ○ 麻疹患者と接触した場合は、潜伏期間を考慮し、接触後14日間(最大21日間)の健康観察が必要です。 ○ 麻疹は感染力が極めて高い感染症で、典型的な症状として、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日続いたあと、39度以上の高熱と発疹が出現します。 ○ 感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみでは予防することができません。 ○ 予防接種が最も有効な予防方法であり、麻疹の定期予防接種は、1歳児、就学前の年長児の2回接種です。対象者はできるだけ早めに受けるようにしましょう。
備 考	

麻疹（はしか）とは

1 麻疹とは

麻疹は、麻疹ウイルスによる感染症であり、感染症法上の五類感染症です。2015 年には WPR 麻疹排除認証委員会より日本は麻疹排除状態であると認定され、近年の麻疹の発生は輸入症例を端とするものとなります。世界でも、麻疹の排除に向けて、予防接種率の向上等の麻疹対策が強化されていますが、途上国では、いまだに5歳以下の子どもの主な死亡原因となっています。

2 原因と感染経路

病原体は、麻疹ウイルス（measles virus）です。空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。発症した人が周囲に感染させる期間は、発熱及びかぜ症状が出現する0～2日前、発疹が出現する4日前から発疹出現後4～5日くらいまでです。なお、感染力が最も強いのは発疹出現前の期間です。

3 症状

感染力はきわめて強く、麻疹に対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染します。感染しても発症しない不顕性感染はなく、全て発症します。典型的には、約10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。主な症状は、発熱・発疹の他、咳、鼻水、目の充血などです。また、合併症として、肺炎、中耳炎、稀に、脳炎、失明等があり、肺炎や脳炎は、重症化すると死亡することもあります。一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

4 治療

特別な治療法は無く対症療法が行われます。感染初期であれば、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もあります。

市民の皆様への注意喚起

- 麻疹を予防するためには、MRワクチン（麻疹風疹混合ワクチン）の接種が最も有効です。予防接種法に基づく定期予防接種が計2回（1回目：1歳～2歳未満 2回目：小学校入学前の1年間）行われていますので、対象者の方でまだ接種が済んでいない場合は早めの接種をお願いします。
- 麻疹を疑う症状がある場合は、事前に医療機関に電話で麻疹の疑いがあることを伝え、早めに医療機関を受診してください。